

平成 29 年度サービス第三者評価（公益社団法人全国有料老人ホーム協会）

法人名	株式会社生活科学運営	ホーム名	ライフハウス浦和	ID	2923
	評価機関	株式会社ケアシステムズ	評価日	2018. 2. 9	

スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価
1. 1. 1	B	B	2. 3. 3	A	A	6. 1. 2	A	A
1. 1. 2	B	A	2. 3. 4	A	A	6. 1. 3	A	A
1. 1. 3	A	A	2. 3. 5	A	A	6. 2. 1	非該当	非該当
1. 1. 4	A	A	2. 3. 6	A	A	6. 2. 2	非該当	非該当
1. 2. 1	B	B	2. 3. 7	B	B	6. 2. 3	非該当	非該当
1. 2. 2	A	A	2. 3. 8	非該当	非該当	6. 2. 4	非該当	非該当
1. 2. 3	A	A	2. 3. 9	A	A	6. 2. 5	非該当	非該当
1. 3. 1	A	A	2. 3. 10	A	A	6. 2. 6	非該当	非該当
1. 3. 2	A	A	2. 3. 11	A	A	6. 2. 7	非該当	非該当
1. 3. 3	A	A	2. 4. 1	B	A	6. 2. 8	C	C
1. 4. 1	B	B	2. 4. 2	A	A	6. 2. 9	A	A
1. 4. 2	A	A	2. 4. 3	A	A	6. 3. 1	非該当	非該当
1. 4. 3	A	A	2. 4. 4	A	A	6. 3. 2	C	C
1. 4. 4	A	A	2. 4. 5	A	A	6. 3. 3	C	C
1. 4. 5	B	B	2. 4. 6	A	A	7. 1. 1	B	A
1. 4. 6	B	A	3. 1. 1	C	C	7. 1. 2	A	A
1. 4. 7	A	A	3. 1. 2	A	A	7. 2. 1	B	B
1. 4. 8	B	A	3. 1. 3	B	B	7. 3. 1	非該当	非該当
1. 5. 1	A	A	3. 1. 4	C	C	7. 3. 2	非該当	非該当
1. 5. 2	A	A	3. 1. 5	非該当	非該当	7. 3. 3	C	C
1. 5. 3	B	B	3. 1. 6	A	A	7. 3. 4	非該当	非該当
2. 1. 1	A	A	3. 1. 7	A	A	7. 4. 1	非該当	非該当
2. 1. 2	A	A	4. 1. 1	A	A	7. 4. 2	非該当	非該当
2. 2. 1	A	A	4. 1. 2	A	C	7. 4. 3	非該当	非該当
2. 2. 2	A	A	4. 1. 3	A	A	7. 4. 4	非該当	非該当
2. 2. 3	A	A	4. 1. 4	A	A	7. 4. 5	B	B
2. 2. 4	A	A	4. 2. 1	A	A	7. 5. 1	非該当	非該当
2. 2. 5	A	A	4. 2. 2	A	A	7. 5. 2	非該当	非該当
2. 2. 6	A	A	5. 1. 1	A	A	7. 5. 3	B	B
2. 2. 7	A	A	5. 1. 2	A	A	7. 5. 4	非該当	非該当
2. 2. 8	A	A	5. 2. 1	C	C	7. 5. 5	非該当	非該当
2. 2. 9	A	A	5. 2. 2	B	B	7. 5. 6	B	B
2. 2. 10	A	A	5. 2. 3	A	A	7. 5. 7	B	B
2. 2. 11	A	A	5. 2. 4	C	C	7. 6. 1	A	A
2. 3. 1	非該当	非該当	5. 2. 5	非該当	非該当	7. 6. 2	A	A
2. 3. 2	非該当	非該当	6. 1. 1	非該当	非該当	7. 6. 3	B	B

評価機関所見

◆優れた取り組みと思われる点	
スケルNo.	所 見
1-2-3	社内監査の仕組みをしっかりと整えている。社内監査マニュアルには、人事、経理、契約、運営、建物等に係る最新の遵守すべき基本法令が記載されており、法令に従って事業所にて確認しなければならない条項、チェック項目シートとなっている。特に経理に関しては業務指針が定められており、現金、印章に関する決まりがしっかりと遂行されていることが確認できる。
1-4-8	法令遵守に関して細心の注意を払っている。入居募集に関する本社の担当者、施設の担当者がサービス内容に加え個人情報保護、消費者契約法等、関連法令についても常に確認できる業務マニュアルがある。施設の管理者は、入居希望者に施設運営の正確な情報を開示できるよう、希望に応じて法人の各種資料を閲覧できる環境を整えている。
3-1-6	別棟のクラブハウス1階の多目的室は毎週木曜日に公文学習塾へ貸出をし、一方でオープンスペースとして地域の方々に無料で貸出をしている。そこでは入居者の方々が卓球やコーラスを楽しみ、廊下を利用して毎朝、自主的にラジオ体操をおこなっている。2階には男女別に大浴場があり、11:30から21:30の間であれば、いつでも入ることができ、入居者と家族と一緒に利用することもできる。また、居室のあるライフハウスでは談話室が用意され、編み物などのサークル活動や会議に活用されている。多種多様なスペースが用意され、地域の方々に解放しているスペースがあることはこの施設が地域の中に根ざすには良い点と思われる。さらなる多目的室の活用のPRが期待される。
4-1-4	外部のサービスとしては理美容、朗読の会、週1回の野菜販売、2か月に1回のメガネの調整などがある。現在、介護保険サービス利用の入居者は15名おり、その中で隣のデイサービスの利用者が5~6名いる。他にヘルパー派遣や訪問歯科、訪問診療を受けている入居者は多数いる。地域のシニアサポートセンター（地域包括支援センター）の職員による入居者向けの介護保険制度について勉強会の協力や、在宅のケアマネジャーが主催する入居者のサービス担当者会議には当施設の生活相談員が参加し情報共有をするなど、外部のサービスの多職種との連携を図っている。

◆さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点	
スケルNo.	所 見
1-4-1	明確な等級制度、職務における役割と権限に関して定められている。また、年に2回の人事考課の仕組みがあり、人事考課はしっかりと遂行されているものの、個々の職員の能力向上のための仕組み構築がやや弱いと思われる。個々の職員の能力向上に向けた仕組みの構築によりより質の向上が可能と考えられる。
2-4-1	介護保険サービスにおいては、外部の介護支援専門員が担当し、利用者の介護サービス等は近隣の介護事業者が各サービスを提供している。虐待防止のための仕組みは構築されているが、目が届きにくい外部事業者のサービスの品質について、ケアマネジャー以外にも定期的に確認し意見を徴収できる体制があることによりサービスの向上が図られると思われる。
5-1-1	食事はメニューと申込書を毎週金曜日に配布し、翌週の水曜日に回収し次週の注文をしている。日曜日の朝食はパンかご飯、昼食は蕎麦かうどん、夕食は魚か肉を選ぶことが出来る。年1回、食事アンケートをとり嗜好を聞いている。現状は入居者の食事の希望者が全体の15%で、施設の食事を通しての健康長寿や介護予防の観点からはかい離している。食事に関してのミニ懇談会もおこなっているので、今後施設の食事の良さをアピールし、摂食力の向上が望まれる。また、地域に向けて食堂を解放するなどの工夫が望まれる。
6-3-2	認知症の対応については職員向けには社内研修をおこなっており、入居者向けには近くの医療機関の協力を得て、セミナーを年1回開催している。現在、何らかの認知症状がある入居者は71名の内5名程度おり、年々増加傾向にある。入居者のアンケートからも見られるように、職員の認知症の方への対応がバラバラで不満があり、入居者が認知症の人に対してどのように接して良いか解らず、トラブルになることもある。今後ますます、認知症に対する入居者への理解や職員への教育が求められる。心療内科や精神科の協力を得て、認知症と診断される前の段階でサポートが出来るような体制づくりが望まれる。